

(株)ファームきぬがわ 代表取締役

衣川重人さん

明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

「社会保険などの雇用環境を整えて、夜久野で農業がしたいと言ってくれる若手を受け入れ、経営規模を拡大していくために法人化した」と話すのは、福知山市夜久野町平野地区の「(株)ファームきぬがわ」代表取締役の衣川重人さん(62)。

同地区は同町の西に位置し、中山間地域に多くの水田が広がる。地区内には、JR上夜久野駅や地元で採れた米や野菜等を販売する「道の駅 農匠の郷やくの」などがある。

衣川さんは、10年前にサラリーマンを退職し、親が所有していた1・5畝の農地を集積、ビニールハウス2棟を建てて農業を始め

た。その後、高齢化や後継者の不在で年々預かる農地が増え、現在では隣の水上集落を合わせ22畝ある農地の半分近い9畝にビニールハウス6棟経営するまでになった。

また、京都府立農業大学の学生の研修を受け入れる中で、「町内の学生が研修に来て、『夜久野町で農業をやりたい』と言ってくれたことがきっかけになった」と衣川さんは話す。同地域で農業を志す若手を雇えるよう、一般企業と同様の雇用環境を整え経営規模

を拡大するために、市やJAの支援を受け2017年2月に法人を設立した。その後、法人設立のきっかけとなった農業大学の卒業生を1人雇い入れ、パートタイマーを7、8人雇い、米や水稻採種、万願寺甘とう、紫ずきんなどを栽培する。

しかし、同地域では鹿やイノシシによる獣害も多く、防護柵や電気柵の設置にも多くの人員が必要なもの、高齢化と後継者不足が進み、地域ぐるみの作業や年々預



▶ 地元の農業を引っ張る衣川さん

かる農地が増える傾向にあり、負担が大きくなっていく。同地区にある平野・水上集落営農組合の組合長も務めている衣川さんは「水路の草刈りや共同施設を守って行くためにも営農組合と連携してやっていくことで、営農組

合の組合員の減少を防ぎ、できる限り周りの農家が農業を続けてもらえるようにサポートしていきたい」と話す。

また、3月から11月までは多忙なもの、冬場の3ヶ月間は収入が減ってしまうことから、周年で取り組める作物が必要と考え、JAからも支援を受け、積極的に新しい作物に取り組み姿勢だ。

「水稻以外に万願寺甘とうの本数を増やし、地元の50、60代の女性の働き口にしていきたい。2、3年のうちに従業員を新たに雇い、野菜を周年で栽培できるように、野菜を周年で栽培できるようにしたい」と、衣川さんは今後の方針を語った。

■法人所在地 福知山市夜久野町平野352。(電)0773(338)0308(衣川さん宅)。

■法人概要 2017年2月設立。役員1名、従業員1名、農繁期パートタイマー7〜8名。経営面積 9畝(コシヒカリ2畝、水稻採種5畝、万願寺甘とう30畝、紫ずきん30畝、紫ずきん3号採種10畝、水稻苗4000枚など)、農作業受託6畝。農業機械 トトラクター2台、田植え機2台など。

若手と共に農地を守る